

令4 高等学校看護 (4枚のうち1)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

I 次の事例を読んで、あとの問いに答えなさい。

Aさん(64歳・女性)は、10年前に2型糖尿病と診断され、外来治療を続けていた。徐々に血糖コントロールが不良となり、精密検査とインスリン治療を検討するために入院し、生徒が臨地実習で受け持つこととなった。身長154cm、体重45kg、HbA1c9.0%、早朝空腹時血糖値178mg/dlであった。Aさんは「知らない間に傷ができ、2週間経つがなかなか治らない」と言っている。

1 図は膵臓周辺の解剖図を表している。

- (1) 図中のa～cの名称を書きなさい。
- (2) aの部位にある筋肉の名称を書きなさい。

2 次の文章は、膵臓から分泌される消化酵素について説明したものである。文中の空欄(①)～(⑤)に入る適切な語句を書きなさい。

膵液には、デンプンを分解する(①)、タンパク質を分解する(②)や(③)など、脂肪を分解する(④)などが含まれており、これらは、消化・吸収のためには必須の消化液である。また、膵液はアルカリ性の(⑤)を多量に含んでいる。これによって強い酸性を示す胃液を中和する。

3 文中の下線部について、次の問いに答えなさい。

- (1) 考えられる原因を2つ説明しなさい。
- (2) 進行することにより考えられる症状を書きなさい。

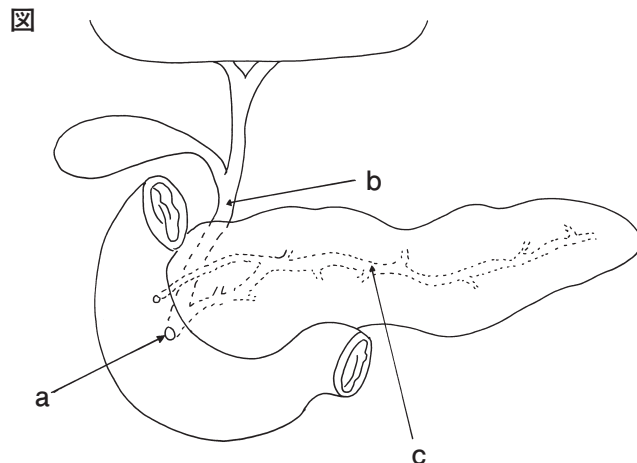
4 Aさんの標準体重をもとに1日の摂取エネルギー量を計算しなさい。

ただし、標準体重1kgあたりの消費エネルギーを30kcalで計算し、四捨五入して整数で答えなさい。

5 Aさんはインスリン注射を始めることになった。インスリン自己注射について適切なものを、次のア～オから2つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 針をまっすぐに取り付け、すぐに指示された単位をセットする
- イ 注射後は穿刺部位をよくマッサージする
- ウ 注射部位は腹壁、大腿、上腕外側、殿部などが適切である
- エ 使用済みの注射針は一般廃棄物処理容器に入れる
- オ 前回と同じ部位への注射は行わない

6 生徒が受け持って5日目に、Aさんから「10年間頑張ってきたのに…やっぱり食べ過ぎていたのね」と言われたため、生徒は食事のみに着目した指導を考えた。この生徒の不足している視点を、教員としてどのように指導するか、具体的に書きなさい。



II 次の事例を読んで、あとの問いに答えなさい。

Bさん(32歳・初産婦)は、妊娠28週2日である。これまでの妊娠経過は特に異常はなかった。本日の検診では、血圧148/94mmHg、尿タンパク(+)、尿糖(-)、下肢に軽度の浮腫がみとめられた。血液検査データは、Hb12.1g/dl、Ht34%、空腹時血糖86mg/dlであった。

1 Bさんの妊娠経過のアセスメントとして適切なものを、次のア～エから1つ選んで、その符号を書きなさい。また、その判断をした理由を述べなさい。

- ア 切迫早産
- イ 妊娠貧血
- ウ 妊娠高血圧症候群
- エ 妊娠糖尿病

2 Bさんの病態の分類として適切なものを、次のア～エから2つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 軽症
- イ 重症
- ウ 早発型
- エ 遅発型

3 Bさんの病態が悪化することによって生じるけいれん発作を何というか、書きなさい。また、それによって起こる合併症を1つ書きなさい。

4 けいれん発作の前駆的症状として適切なでないものを、次のア～エから1つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 眼華閃発
- イ 頭痛
- ウ 吐き気・嘔吐
- エ 頻尿

5 Bさんに必要な保健指導として適切な声掛けを、次のア～エから1つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 血圧が上昇しないように気をつけながら運動しましょう
- イ 胎児への影響は少ないので、安心してください
- ウ 検診の回数を増やし、血圧、検尿、体重測定を行いましょう
- エ 分娩方法は、普通どおり経陰分娩で大丈夫です

III 免疫のしくみとアレルギーについて、次の問いに答えなさい。

1 アナフィラキシーショックについて適切なものを、次のア～オから2つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 徐脈になる
- イ 重症例では死に至る
- ウ 気道粘膜の浮腫を生じる
- エ III型アレルギー反応である
- オ 副腎皮質ステロイドは禁忌である

2 免疫担当細胞とその機能の組み合わせとして適切なものを、次のア～エから1つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 好中球 - 抗原の提示
- イ 肥満細胞 - 補体の活性化
- ウ 形質細胞 - 抗体の産生
- エ ヘルパーT細胞 - 貪食

令4 高等学校看護 (4枚のうち2)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

IV 次の事例を読んで、あとの問いに答えなさい。

Cさん(80歳・男性)は、高血圧の内服治療中であるが、その他大きな異常はみられない。現在の症状としては、**a**時々おなかが張ること、皮膚には湿疹などはないが**b**掻痒感があること、**c**寝つきが悪く、**d**夜中に何度か目が覚めることがある。主治医より、加齢による身体の機能低下に注意するように言われている。また、変形性膝関節症があり歩行しにくい、**e**高齢のため呼吸器合併症が起こりやすいと聞いて不安があり、手術は希望していない。

- 2020年のわが国の高齢化率(総務省統計局発表)として適切なものを、次のア～エから1つ選んで、その符号を書きなさい。
ア 21.8% イ 25.6% ウ 28.7% エ 30.2%
 - 次の文章は、下線部**a**について老年期の特徴をふまえて説明したものである。文中の空欄(①)～(⑤)に入る適切な語句を書きなさい。
おなかが張るという訴えは、看護の専門的な用語で(①)と言い、高齢者の原因は(②)によるものが多い。これは、大腸において、腸管(③)筋の萎縮や平坦化、直腸壁の感受性の低下による排便(④)の減退、肛門(⑤)筋の脆弱化による。
 - 下線部**b**について、高齢者に起こりやすい理由として適切なでないものを、次のア～エから1つ選んで、その符号を書きなさい。
ア 皮脂や発汗が減少するため皮脂膜が十分に形成できない
イ 天然保湿因子が減少する
ウ かゆみの閾値が高まる
エ かゆみの受容器であるC線維が表皮内まで侵入しているので、容易にかゆみが誘発される
 - 下線部**c**、**d**をそれぞれ看護の専門的な用語で書きなさい。
 - 下線部**e**について、その理由として適切なものを、次のア～エから1つ選んで、その符号を書きなさい。
ア 残気量の減少 イ 肺活量の低下 ウ 嚥下反射の亢進 エ 気道の線毛運動の亢進
 - Cさんは膝の痛みが増強し歩行困難となったため、手術を受けることとなり入院してきた。手術前のCさんを生徒が臨地実習で受け持つこととなった。不安の強いCさんを受け持つ生徒に対し、教員として実習中に指導する際のポイントを書きなさい。
- V 特別な支援が必要な子どもたちについて、次の問いに答えなさい。
- 2012年文部科学省の「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」では、通常学級において学習面または行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合は、()%であるといわれている。文中の空欄()に入る適切な数字を、次のア～エから1つ選んで、その符号を書きなさい。
ア 2.5 イ 6.5 ウ 15.5 エ 22.5
 - ①LD、②ADHDが示す語句として適切なものを、次のア～エからそれぞれ1つ選んで、その符号を書きなさい。また、その説明文として適切なものを、**a**～**e**からそれぞれ1つ選んで、その符号を書きなさい。
ア アスペルガー症候群 イ 学習障害 ウ 知的障害 エ 注意欠如・多動症
- [説明文]
- a** まばたき・頭を振る運動・肩すくめ・しかめ顔などの、不随意的、急速で反復的な運動・発声、頻発する状態のことである
 - b** 一般知能に大きな障害がないにもかかわらず、読字・書字・算数といった特定の領域で障害を示すものである
 - c** 原因は、染色体異常、代謝障害、奇形、感染中毒、産科的障害など、さまざまである。根治的な治療法はなく、適切な発達刺激を与え、療育および教育的対応がおもな治療となる
 - d** 言語や認知といった能力は発達しているが、社会性・興味・コミュニケーションについて一定の障害が認められるのが特徴である。他者の気持ちを推察することが苦手、対人関係の構築が難しい、特定の分野に局限した強いこだわりがある
 - e** 中枢神経系の機能不全によって生じる病態で、小児期までに出現し、かつそのために社会適応に問題がある場合に診断される。心理教育や認知行動療法、薬物療法(とくに中枢刺激薬のメチルフェニデートなどによるもの)、家族や関係者に対する援助が行われている
- 自閉症スペクトラム症について適切なものを、次のア～エから1つ選んで、その符号を書きなさい。
ア 反復的行動パターンがみられない
イ 出生時に診断される
ウ 言葉の発達には遅れはみられない
エ 人より物への関心が強い
 - 自閉症スペクトラム症の人への支援について適切なものを、次のア～ウから1つ選んで、その符号を書きなさい。
ア 外見上も特有な変化がみられるため、いじめの対象とならないように配慮する
イ 新しいことや予測不可能なことに興味を示すため、そこから意欲を引き出す
ウ 直接的に言葉で言われたことに対して、そのまま理解することが多いため、言葉に注意して話をする

令4 高等学校看護 (4枚のうち3)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

VI 次の事例を読んで、あとの問いに答えなさい。

Dさん(11歳、女児)は、眼瞼浮腫がみられたため眼科を受診し、治療を受けたが改善しなかった。その後、Dさんと母親が下腿の浮腫に気づき眼科の医師に相談したところ、小児科を紹介され、特発性ネフローゼ症候群と診断をうけ、入院となった。

- 看護師が収集すべきDさんの情報で優先度が高いものについて適切なものを、次のア～オから1つ選んで、その符号を書きなさい。
ア 食欲 イ 家族歴 ウ 手術歴 エ 海外渡航歴 オ 初経の発来の有無
- Dさんが摂取を制限する必要があるものについて適切なものを、次のア～オから1つ選んで、その符号を書きなさい。
ア ナトリウム イ カリウム ウ たんぱく質 エ 水分 オ リン
- Dさんはステロイド治療の開始後10日で尿たんぱくが陰性となり、浮腫などの症状が改善した。入院後3週間が経ち、ステロイド薬の副作用として、満月様顔貌が出現した。他に明らかな副作用は出現していない。ステロイド薬の内服は退院後も継続される。退院時の生活指導で適切なものを、次のア～オから1つ選んで、その符号を書きなさい。
ア 日光浴を避ける
イ 体重の測定は毎日行う
ウ 1か月は学校を欠席する
エ 入浴ではなくシャワー浴を行う
オ 満月様顔貌が気になる場合であっても、ステロイド薬の内服を中断しない
- Dさんが対象年齢に入っている予防接種について適切なものを、次のア～キからすべて選んで、その符号を書きなさい。
ア Hib(インフルエンザ菌b型) イ 肺炎球菌 ウ B型肝炎 エ 日本脳炎
オ DT(ジフテリア、破傷風)Ⅱ期 カ HPV(ヒトパピローマウイルス) キ BCG

VII 次の事例を読んで、あとの問いに答えなさい。

Eさん(76歳、男性)は、10年前より庭仕事をしているときや階段を昇っているときに息切れを感じるようになった。3年前にCOPD(慢性閉塞性肺疾患)と診断され、薬物療法を開始した。1か月前、風邪が悪化し、安静時でも強い息切れと頭重感があり、COPDの増悪と診断された。入院加療の結果、症状が軽減し、在宅酸素療法と訪問看護が導入されることが決まり、退院し自宅に戻ることになった。

- COPD発症の最も重要な危険因子を書きなさい。
- COPDの症状に最も関連が低いものについて、適切なものを、次のア～オから1つ選んで、その符号を書きなさい。
ア 胸部の前後径の拡大 イ 口すぼめ呼吸の頻発 ウ 可逆性の閉塞性換気障害の出現
エ 呼気延長 オ 喀痰量の増加
- Eさんへの生活指導について適切なものを、次のア～エから1つ選んで、その符号を書きなさい。
ア 労作時は酸素流量を増やすように指導する
イ 動作に合わせて短息呼吸をするように指導する
ウ COPDは呼吸筋のエネルギー消費量が増えるため、栄養状態の悪化に注意するように指導する
エ COPDによりインフルエンザワクチンを接種すると症状が悪化する可能性があるため、接種しないように指導する
- Eさんの家族から退院数日後、次の(1)・(2)について相談があった。訪問看護師の対応として最も適切なものを、次の(1)・(2)のア～エからそれぞれ1つ選んで、その符号を書きなさい。
(1)「この地域で2週間後に日中3時間の停電が予定されている。どのように対応すればよいかわからない。」
ア 事前に呼吸訓練を指導する
イ 医療機関への入院を勧める
ウ 自家発電機の購入を勧める
エ 携帯用酸素ボンベの準備を勧める
(2)「できれば自宅で介護したいと思っていたが、どんどん悪くなっていくようで心配だ。再度入院させたい。」
ア 主治医と入院を検討する
イ 訪問介護を検討する
ウ 訪問看護の回数を増やす
エ サービス担当者会議の開催を介護支援専門員に依頼する
- Eさんの急性増悪に対応できるように家族指導を行いたい。その際のポイントを書きなさい。

令4 高等学校看護解答用紙 (4枚のうち4)

総計		

看護

I	1	(1)	a				b
			c	(2)			
	2	①		②		③	
		④		⑤			
	3	(1)					
		(2)					
	4	【式】			【答え】		kcal
	5						
	6						
II	1		理由				
	2		3	(名称)	(合併症)		
	4		5				
III	1		2				
IV	1						
	2	①	②	③	④	⑤	
	3			4	c	d	
	5						
	6						
V	1						
	2	①	[説明文]		②	[説明文]	
	3			4			
VI	1	2	3	4			
VII	1			2	3		
	4	(1)	(2)				
	5						

I		

II		

III		

IV		

V		

VI		

VII		

令 4 高等学校看護 模範解答

総計
200

I	1	(1)	a ファーター乳頭	b 総胆管				
			c 膵管	(2) オッディ括約筋				
	2		① アミラーゼ	② トリプシン	③ キモトリプシン			
			④ リパーゼ	⑤ 重炭酸イオン				
	3	(1)	糖尿病による微小血管障害により治癒が遅延していること		糖尿病による神経障害により感覚が鈍磨していること			
		(2)	潰瘍・壊疽（感染）・壊死					
4		【式】 $1.54 \times 1.54 \times 22 \times 30 = 1565.256$		【答え】 1565 kcal				
5		ウ	オ					
6		視点①運動指導：適切なウォーキング、靴の選定、低血糖対策、生活の場での身体活動の仕方 ②薬物指導：インスリン療法の目的・方法、指示薬の確実な投与 ③合併症の予防：定期的な観察と医療の早期発見、血糖コントロール、知識確認、低血糖値の対応、感染予防 ④精神的支援：ストレスへの対応 指導①生徒の知識の確認ができています ②患者の気持ちの理解を踏まえた対応ができるように指導できている						
II	1	ウ	理由	妊娠20週以降、初めて高血圧を発症している、かつ、タンパク尿を伴っている				
	2	ア	ウ	3 (名称) 子癇 (合併症) 脳出血 等				
	4	エ	5	ウ				
III	1	イ	ウ	2	ウ			
IV	1	ウ						
	2	① 腹部膨満	② 便秘	③ 平滑	④ 反射	⑤ 括約		
	3	ウ	4	c 入眠困難	d 中途覚醒			
	5	イ						
	6	手術に対してCさんがどのような不安をもっているか確認する 不安が生活にどのように影響しているか確認する 術前オリエンテーションの内容をどのように理解しているか確認する 医療者の説明に対し、理解が不十分であったり、不安が強い場合は看護師に相談し、再度医師により説明を依頼する						
V	1	イ						
	2	①	イ [説明文]	b	②	エ [説明文]	e	
	3	エ	4	ウ				
VI	1	ア	2	ア	3	オ	4	エ オ カ
VII	1	喫煙	2	ウ	3	ウ		
	4	(1) エ	(2) エ					
	5	病状の変化、悪化を早期にとらえ、適切に医療・治療を結びつけるように指導する必要がある。 まず、家族がEさんの悪化徴候である発熱、息切れ、咳・痰、尿量低下、手足の浮腫、集中力の低下、頭痛、眠気などの徴候を理解し、観察でき、また、症状出現などの異常時は早期に医療機関や訪問看護ステーションに連絡してもらうように指導する 平時より緊急時の移送手段の確保を家族と話し合っておく。						

I
62

II
27

III
9

IV
47

V
17

VI
13

VII
25